

2018（平成30）年度 社会福祉法人「ゼノ」少年牧場 事業報告

1. 法人本部

1) 重点課題に対する取り組み

(1) 外国人労働者の確保と育成に向けた取り組み準備

労働人口の減少に対応するため、法人独自でベトナムに実習施設を開設し、人財の確保と育成に係る公益事業の創設に向けた協議・検討を進めた。また、2019年4月から国際事業部を創設するにあたり人選を進め、その準備にあたりとともに外国人留学生の採用も行なった。公益事業の創設にあたっては、広島県と何度も協議を重ね、定款変更により許認可を受けた。

(2) 法人の枠を超えた人財確保の取り組み

県内の障害関係事業を実施する社会福祉法人が集い、社会福祉関係の職場説明会（福山ビッグローズで開催）を企画し、マイナビの協力を得て実施した。

(3) 新たな高年齢者雇用確保対策の導入

当法人における現在の高年齢者雇用確保対策は、正規職員は60歳定年で65歳まで再雇用ができる仕組みであるが、支援技術や知識の継承を主たる目的とした65歳までの選択定年制を導入した。この仕組みにより、正規職員として最大で65歳まで従事することが可能となり、職員個人の体力や気力に応じた働き方が選択できることとなった。

(4) 働き方改革関連法への対応

同一労働・同一賃金の考え方が2020年4月から導入されることから、現時点で雇用形態によって合理性に欠ける処遇や待遇の差を解消するため、年次有給休暇の取扱いを変更するための協議・検討を行なった。

2) 財政状況に関する事項

2018年度は、人件費率が上昇したことに伴い当期の収支差額は前年度の約6割となったが、経営指標の観点においては安定的な財務状況であったと言える。

人件費の増額については様々な要因が考えられるため、適正な職員配置の再検討を図りながら同時に固定費の削減に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。

3) 施設整備等に関する事項

資金使途計画に基づき、施設設備整備や大型備品の整備を行なった。

(1) 施設設備整備：16件

施設設備整備積立金1億5770万円を取崩し、各拠点区分へ繰入れ処理を行なった。

(2) 大型備品整備：10件

備品整備積立金1805万円を取崩し、各拠点区分へ繰入れ処理を行なった。

4) 地域公益事業に関する事項

(1) 未来も笑おうプロジェクトの実施（全22回実施）

- 利用児童：延べ115人
- 費用：147,450円
- 活動職員：延べ111人
- ボランティア：延べ164人

(2) ハートフルフォーラム・ゼノ2018の開催（2019年2月2日開催）

- 演題：『あなたはあなたのままで～発達障がいの娘との30年～』
- 講師：野田福德氏（講演）、野田あすか氏（ピアノ演奏）
- 来場者：612人
- 費用：1,166,870円

(3) 道の駅アリストぬまくま入口にあるバラ園の整備

2か月に1回程度で、利用者とともに草取りや剪定、薬の散布、追肥等の作業を行なった。

- 費用：46,712円

(4) 西日本豪雨災害における災害ボランティアへの職員派遣

2018年7月に発生した西日本豪雨により被災された三原市本郷町船木地域に災害ボランティアとして職員を派遣した（7月～9月）。

- 延派遣職員：131人
- 費用：342,457円（職員派遣日当、水道タンク、洗濯機、活動機材等）

2. 障害福祉関係事業

1) 障害児入所施設

(1) 「ゼノ」やまびこ学園児童部

近年、児童虐待の件数は、増加の一途をたどり過去最高を記録している。全国の児童相談所による平成2年度における虐待による相談件数が約1100件であったが、平成29年度には13万4000件を突破し、100倍以上の相談件数となっている。平成12年に児童虐待防止法が施行され、国民の関心が高まったことや虐待の通報手順などが示されることで、これまで表に出てこなかったケースが表面化している結果であると言える。このような状況で昨年度も虐待が原因となって、幼い命が犠牲なる深刻なケースが全国でも相次ぐ形となった。「ゼノ」やまびこ学園児童部のこどもたちも措置児童が9割を超えて、2018(平成30)年度は、緊急一時保護が急増した。

① 主な取り組み(重点課題)に関する事項

- 人材育成・研修への参加
 - ・ こどもの療育に関する研修、強度行動障害等の研修を強化した。
- 地域移行へ向けた関係機関とのネットワーク強化
 - ・ 福山圏域にある相談支援・就労関係事業所・社会資源について調べ整理した。
 - ・ 高等部在籍児童を対象として出身地域の相談機関への見学等を実施した。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 利用実績：定員21人（一時保護委託 年間10人受入 ※昨年度3件）

(単位：名)

療育手帳		年齢分布		就学状況				措置・契約児童数	
④	1	2～3歳	1	小学1	1	中学1	3	措 置	21
A	5	4～6歳	2	小学2	1	中学2	1	契 約	1
⑤	1	7～12歳	6	小学3	2	中学3	1		
B	11	13～15歳	5	小学4	1	高校1	4		
未所持	4	16～18歳	8	小学5	1	高校2	0	性別児童数	
合計		19歳以上	0	小学6	0	高校3	4	男 児	14
22		合計		合計（※未就学児3人）				女 児	8
		22		19					

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

- 職員配置・・・ 児童指導員、保育士、看護師等配置基準を下回ることはなかった。
配置基準 7.9 人 → 10.7 人配置
- 各種委員会・・・ 労働衛生・危機管理・人権擁護・サービス向上・健康管理
環境美化等を通して施設運営に現場職員が参画した。
- 内部研修・・・ 人権・権利擁護に対する内部研修を行なった。

④ 当面の運営課題

- 社会的擁護の必要な子どもの増加
 - ・ 卒業等による退所支援（地域移行等）及び社会的養護、障がいの重い児童の積極的な受入による社会から必要とされる施設としての継続性が必要である。
- 人材確保と育成
 - ・ 人財の確保に加え、中堅職員の底上げ(将来を担う人財の育成)が課題である。
- 誤薬に関する取り組み
服薬支援に関する支援の重要性を理解し、職員の意識改革、情報伝達の仕組み作りが課題である。

2) 障害者支援施設

(1) 「ゼノ」やまびこ学園成人部

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- IT 環境構築による業務の効率化（Wi-Fi 環境 タブレットの準備 記録のデータ化）

Wi-Fi 環境、記録ソフトについては、年度を跨ぐ形で遅滞し、2019 年 5 月契約予定で準備を進めている。タブレットに関しては、購入を済ませペーパーレス会議への検討を開始した。

- 地域との関係性の強化

地域との関係性については、従来通り溝掃掃除や学園行事などに招待し、関係性の維持に努めた。

- ライフステージ、ニーズに合わせた支援強化

一人一人の利用者に関係する部署でのケース検討の課題について、他部署へ足を運び状況を知ることから始め、他職種間での連携を意識する土台は出来た。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

実施事業		現 員	男	女	平均年齢	利用率
障害者支援施設	施設入所	41 人	34 人	7 人	43.8 歳	—
	生活介護	38 人				99%
通所生活介護		17 人	11 人	6 人	48.2 歳	96.4%

※障害者支援施設利用者のうち 3 人は、日中 JOB プラスはんど利用

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

- 職員配置・・・年度途中にて非常勤看護職の配置が行えた。

- 各種委員会・・・労働衛生・危機管理・人権擁護・サービス向上・健康管理・環境美化
各々の委員会の活動は独立した取り組みが行え、実践されている。
個々の委員会が実践していることが、より一層組織へのエネルギーになるよう仕組みを検討し、次年度へ繋ぐ。

- 内部研修・・・権利擁護、健康管理などの研修を行い、一定の刺激としての成果を得られた。今後は、主任会及び OJT のシステムを効果的に動かすことで組織としての学びに繋げていきたい。

④ 当面の運営課題

- 人材育成

① 中堅層以上の業務経験の推進と OJT 機能から理念、業務基準の標準化を見直し、次世代へ繋がる職員育成を課題とする。

② 各資格取得や健康面、行動障害関連への対応など専門職としての学習の推進を目指す。

- 整備事業

上水道 貯水タンクの入替工事及び斜面等の舗装改修工事、豪雨による土砂災害対策など、環境面への最大限の取り組み。

(2)「ゼノ」なごみの家

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 整備事業（個室化、GH建設に関する各種取り組みについて）
 - ・利用者の積極的な生活体験及び保護者への説明会などを実施
- 上記 整備計画に向けた取り組み
 - 資金計画・運営シミュレーション・職員配置（勤務シミュレーション）などをもとに、入居予定者・保護者との連携を図った。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 定員 32 人 平均年齢（60.1 歳：男性 62.5 歳 女性 57.2 歳）
 - ※ 利用率：施設入所（98.4%） 生活介護（98.1%）

2018年度の入院状況（実人数8名 述べ回数は10回）

	病名	人数	延べ期間	病名	人数	延べ期間
内科	尿路感染症	1名	73日	大腸内視鏡検査	1名	2日
外科	【骨折】 ・左上腕骨外科頸 ・腰椎 ・右大腿骨頸部 ・左大腿骨頸部	4名	98日	交通事故	1名	2日
歯科	抜歯	1名	2日			
一般外科	臀部皮下腫瘍切除	1名	4日			

2018年度は、年齢を重ねるとともに身体機能の低下が顕著にみられるようになっていた。居室等で躓き骨折し、入院まで至ったケースが4件あった。食事に関してもむせる人が増え、食事の提供方法、食事姿勢など配慮の必要度が増えてきている。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

- 職員配置
 - ・・・生活支援員 看護師など配置基準を下回ることにはなかった。給食部において産休、体調不良などが重なり、人員不足の状態が続いた。
- 各委員会の強化
 - ・・・自治会、環境設備、保健給食、権利擁護、情報管理、OJT、研修。
各委員会が主体となり、支援環境を整えていくためのテーマや具体的支援の提案など積極的な活動が展開された。
『働き方改革』では、衛生委員会を中心に業務改善に取り組んだ。
- 内部研修の強化
 - ・・・権利擁護委員会等それぞれの委員会が主体となり内部研修を実施した。また、外部講師を招き、専門的知識の向上も図った。

④ 当面の運営課題

- 整備事業
 - ・・・なごみの家本体の改修工事に向けた取り組み。
- 人材確保と育成
 - ・・・介護福祉士など有資格者など専門的人材の育成
- 高齢化対応
 - ・・・事業所見学（高齢分野）などを通じて、業務の見直し、最新機器の導入など対応面を学習していく

3) 地域生活支援事業

(1) 生活支援センターほほえみ

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 職員集団としての質の向上、支援者一人ひとりの支援スキル、介護技術の向上
- 地域支援（新規ニーズ）の拡充と人材（ヘルパー）の獲得

1 人時間給ヘルパーの獲得ができたのみであった。時給 1,000 円では難しい状況にある。

- 単独型短期入所事業の将来構想についての検討、事業の整理

居宅支援事業所と単独型短期入所事業を分けて運営できるように目指していく。今の体制では限界も見えており、縮小も含めて検討を継続していく。

- 地域共生型サービス（ホームヘルプサービス）についての検討

ホームヘルプサービスの時間が確保できず、支援ができていない状況にある。地域共生型は一度見送り、まず支援ができるシステム・体制づくりを目指していく。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 居宅支援について、行動援護以外の支援時間が過去 5 年間で過去最低を記録している。地域生活を支える為の運営方法の見直し、規模縮小を検討していく。
- 短期入所の利用希望が増えている。評判も広がっていたが、利用者数の増加に伴い支援に手が回らずに預かっているだけという現状がある。支援の組み立てを取り組んで、充実させていく。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

	正規	契約
管 理 者	1	
従 業 者	7	2
受託居宅従事者	2	4
サービス提供責任者	3（従業者兼務 1 名） （受託居宅従事者兼務 1 名）	
従業者（GH 職員兼務）	7	
生活支援員		3
合 計	17	9

※資格取得状況 今年度行動援護従事者 2 名取得

介護福祉士	13	行動援護従事者	11	ホームヘルパー2 級	6
全身性移動介護	0	精神保健福祉士	1	区分認定調査員	1
ガイドヘルパー視覚障害	0	保育士	0	社会福祉士	4

④ 当面の運営課題

- 人財の確保（固定給職員・登録ヘルパー）
- 経営の安定

収入の増加だけでなく、人件費の削減を行ないつつ固定給・ヘルパーの数を増やしていく。

⑤ 施設整備

短期入所事業：共同生活援助事業の財産処分（転用）9,148,936 円

(2) ケアサポートひなた

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 専門職としての資質向上

研修参加を通して、家事援助や身体介護の具体的な技術を学ぶことができた。また、ヘルパー自身のセルフケアにも意識して取り組むことができた。

● 収入増に向けた取り組み

月間スケジュールを、兼務者を抱える事業所と連携を取ることで、支援回数の大幅な増加につなげることができた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

(単位：回・名)

支援内容		2016 年度	2017 年度	2018 年度	契約者数
居宅介護	身体介護	60	672	863	6
	家事援助	0	20	108	3
	通院等介助（身有）	0	19	27	1
	通院等介助（身無）	0	0	0	0
行動援護		0	10	58	2
重度訪問介護		0	0	0	0
合 計		60	721	1056	12

- 法人内事業所の利用者だけでなく、地域で生活されている方への支援にも入ることが増えており、今後も職員体制を整えながら支援に取り組んでいく。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

(単位：名)

職 種	正規	契約	合計	備 考
管理者	1		1	兼務
サービス提供責任者		1	1	従事者兼務
居宅介護従事者	1	3	4	あかつき兼務 3・そよかぜ兼務 1
合 計	2	4	6	

- 専従のサービス提供責任者 1 名と他事業所兼務の従事者 4 名で身体介護や家事援助の利用を増やすことができ、地域の方の利用も少しずつ広がってきている。
- 居宅介護事業所連絡会が主催する研修を中心に参加し、家事援助や身体介護における具体的な支援方法などを学ぶことができた。

④ 当面の運営課題

● 組織体制の強化

ひなた会議を定例で開催し、利用者のニーズや状況の変化、支援内容などの情報共有を図ることで、支援者が交代しても支援の質を確保できるよう取り組んでいく。

● 専門職としての資質向上

利用者の重度化・高齢化に向けた支援技術・知識を学び、ヘルパーとしての資質の向上を目指す。

● サービスの拡充

支援体制を確保し、地域での利用希望に対応し、サービスの拡充を進めていく。

(3)「ゼノ」Home おおぞら

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 海水浴事故を受けて、再発防止の取り組み強化を行った。行事を実施する際、ホーム会議での検討、起案作成時に注意事項を記載し確認して安全対策の強化を実施してきた。
- 見取りに向けて、夜間面での不安（自分の時に亡くなる）などの軽減を図れるよう関係機関と連携強化を図ってきた。眠りスキャンなどの IOT 機器の導入も実施した。
- 性支援について
妊娠した利用者がおり、出産に向けて各関係機関と調整を実施した。今後も異性と付き合う、性行為、妊娠といった事例はあると思うので、今回のケースをしっかりと次に生かしていく。
- 利用者の「やりたい」「してみたい」を実現する。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

	定員	男	女	平均年齢	障害支援の 区分平均	受託居宅介護 身体介護時間数
Home おおぞら	21 名	7 名	13 名	43.2 歳	3.9	306 時間
Home らん	20 名	15 名	5 名	55.1 歳	4.0	315.5 時間
事業所全体	41 名	22 名	18 名	49.1 歳	3.9	621.5 時間

・ 60 歳以上の利用者数 11 名（介護保険利用者数 6 名）

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

	配置基準（常勤換算）		実際の配置		
おおぞら	世話人	10.25	11.80	+1.55	正規 5、固定給 3、 時間給 8、日給 11

・ 今年度資格取得者、防火管理責任者 1 名、児童発達責任者 1 名、
サービス管理責任者（地域、介護）1 名

④ 当面の運営課題

- 見取りに向けて、継続して取り組んでいく。エンディングノートを活用しながら、それぞれの課題を解決していく。後見人・保佐人手続きの開始。
- 一昨年は海水浴の事故、昨年は帰宅途中の交通事故と事故が続いている。しっかりと安心・安全についての取り組みを強化していく。

⑤ 施設整備

- 眠りスキャンの導入 175 万円

(4)「ゼノ」Home 白雲

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 1) 利用者の重度化・高齢化に備えて、介護保険との併用も行ない、生活全体の安全確保を進めてきた。その過程で、包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター（クローバー）やハローワーク、相談支援事業所「ゼノ」からっと等、様々な関係機関と連携を図りながら取り組んだ。
- 2) 4 年前よりサテライトホームを開始し、今年度も 1 名挑戦し合計 4 名の方が一人暮らしに挑戦したが、2 名がリタイアとなったが、現在 2 名が居宅支援事業所等と活用し生活を満喫している。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

利用状況（2019 年 3 月 31 日現在）

（単位：名）

ホーム名	定員	現員	男性	女性	備考
「ゼノ」Home 白雲	7	7	6	1	サテライト 1 名中止（8 月）
第 3 ホーム	5	4	0	4	
「ゼノ」Home 虹	7	7	4	3	職員常駐ホーム
第 1 ホーム	5	5	5	0	
第 6 ホーム	4	4	4	0	
ホームひだまり	4	4	4	0	
「ゼノ」Home 青雲	5	5	5	0	職員常駐ホーム
Home 大地	5	5	5	0	
あじさいホーム	5	5	0	5	サテライト 1 名中止（3 月）
Home 太陽	5	5	5	0	
合計 10 ヶ所	52	51	38	13	

利用実績（2019 年 3 月 31 日現在）

（単位：日数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
白雲	269	273	269	248	275	270	310	300	305	303	281	341	3,444
虹	596	601	599	620	599	598	589	574	575	574	528	611	7,364
青雲	600	613	600	620	604	600	618	600	611	603	560	620	7,249

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

配置基準（2019 年 3 月 31 日現在）

（単位：名）

職員の配置基準(常勤換算)				職員配置状況					
利用者区分	人数	世話人(4:1)	生活支援員		管理者	サービス管理責任者	世話人	生活支援員	生活支援員(夜勤者)
区分 1	1	12.75		正規職員	1 (兼務)	3 (兼務)	6	8	
区分 2	1			契約職員			3	3	8
区分 3	14		1.56						
区分 4	15		2.50	正規常勤換算		1.0	5.4	6.7	
区分 5	15		3.75	契約職員常勤換算			8.0	3.0	1.6
区分 6	5		2.00	常勤換算合計			13.40	11.30	
小計		12.75	9.81	サービス管理責任者 3 名（生活支援員・世話人とそれぞれ兼務） 看護師（契約）1 名配置					
職員必要人数合計		22.56							

④ 当面の運営課題

- 1) 支援体制の充実のため、ホーム間の応援態勢、夜勤支援体制など労務運営会議を中心に検討する。
- 2) 働き方改革において、休憩時間の確保や年休の取得、超過勤務等へ対応し、働きやすい環境作りを行う。
- 3) 人権学習、人材育成、基礎・実践研修の受講、専門スキルの向上を目指す。
- 4) 利用者の事例に関する内部研修・外部研修や事業所見学を積極的に実施する。

(5)「ゼノ」Home 未来

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 重度訪問介護を利用し、障害の重い方への余暇活動の充実を図った。
 - サテライトホームの開設を行い、自立した1人暮らしに向けての訓練を行なっている。
 - 高齢化対策として、ウォーキング、健康器具等を使用して体力作りに取り組んだ。
 - 定員 26 人 現員 25 人 ●利用実績 98.4%
- 沼隈地区：未来 10 人 輝 7 人 松永地区：絆 3 人 絆結 3 人 夢 2 人

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 「地域生活を楽しむ」をテーマに、本人の意思を尊重した個別余暇活動の充実を図った。
- また、季節行事や地域活動への参加も行った。日々の生活においても一人ひとりの自己選択・自己決定を尊重し、家庭的な雰囲気を意識した支援を心がけた。

ホーム名	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳以上	計	男性	女性
未来	1	1	3	5	—	10	10	—
輝	—	—	3	3	1	7	—	7
絆	3	—	—	—	—	3	3	—
絆結	1	—	—	1	—	2	1	1
夢	2	—	—	—	—	2	—	2
サテライト	1	—	—	—	—	—	—	1
計	8	1	6	9	1	25	14	11

平均年齢：43.2 歳 最高齢：61 歳

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職員配置基準（常勤換算）				職員配置状況				
利用者	人数	世話人 （4：1）	生活 支援員		管理者	世話人	生活支援員	サビ管
区分 1	0	6.25		正規職員	1	5	5	1
区分 2	2			契約職員		5	6	
区分 3	2		0.22					
区分 4	5		0.83	正規常勤換算	1	4.2	4.2	1
区分 5	9		2.25	契約常勤換算		2.2	2.5	
区分 6	7		2.80	常勤換算合計	1	6.4	6.7	1
小 計		6.25	6.11	○行動援護従事者養成研修 2 名受講				
職員必要人数合計		12.36						

④ 当面の運営課題

- 認知症を含む重度・高齢化対策と、職員育成及び支援体制の構築。
- ホーム未来としての役割確認及び今後のあり方・整備検討。
- 就労支援の充実及び一人暮らしや新規利用者受入れの検討。

(6)「ゼノ」ホームなごみ

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 整備事業（個室化、GH建設に関する各種取り組みについて）
 - ・利用者の積極的な生活体験及び保護者への説明会などを実施
- 生活の安定
 - ・宿泊体験の実施、少人数からの移行など生活の場への負担が可能な限り軽減できるよう配慮した。
 - ・ケース会、事例発表（事業所内）を通じた利用者の変化の確認も実施。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

行事を設け、年に数回個別外出を実施した。競艇、プロ野球観戦、動物園など個々に合った行事を展開した。

地域の行事についても、自治会に加入し清掃や研修会、とんどなどの行事に積極的に出向き住民との交流を図った。利用者参加回数が少なかったため、どのように参加していくかが今後の課題である。

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	合計
男性	1	0	0	5	4	
小計	1	0	0	5	4	10

※平均年齢：51.0歳

【健康面】

看護師、栄養士等と協議しながら医療面、食事面に対する支援を実施した。現在まで発見されなかった疾病や食事のむせへの早期発見などが十分にでき、早めの対応が来ている。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職名	正規	契約	実人数	常勤換算	備考
管理者	1	0	0	1	兼務
サービス管理責任者	1	0	0	0.4	生活支援員（常勤換算0.6）
生活支援員	3	1	4	3.5	
世話人	3	1	4	3.5	
夜勤専門員	0	1	1	0.2	生活支援員
合計	8	3	9		
		配置基準	常勤換算合計		
生活支援員		4.16	4.3		
世話人（4：1）		2.75	3.5	※短期入所分の人員配置も含む	

- 内部研修、外部研修、各委員会等を通じ、各々の自主性、企画力の向上を高める働きを実施した。

④ 当面の運営課題

- 体制の確認…日中サービス支援型、介護サービス包括型、外部サービス利用型などの型が適した支援を充実させていくのか再検討が必要。
- 生活の安定…高齢の利用者が生活の場を変えたことにより抱える不安を取り除き、安心した生活ができるよう検討を重ねていく。

(7)「ゼノ」かなべの杜

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 多岐に渡る支援に対応できるよう専門性を高める
障害特性や支援技術等、研修参加を通して専門性を高めていけるよう取り組んだ。
- 利用者の余暇活動の充実
日々の生活の中で楽しみが持てるよう、休日の外出や外食、個別余暇などを実施した。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- バーベキューやクリスマス会等の季節行事や休日のドライブや外食等の行事を行なった。また、温泉や買い物等の個別外出も少しずつ実施できるようになり、余暇活動に広がりを持てるようになってきている。

(単位：名)

ホーム名	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
そよかぜ	3	1	2	1				7
せせらぎ	2	1		2	1			6
こもれび		2	1	4				7
たびあ		5	1	1				7
ゆの	1	2		1	1			5
ひまわり				1	1		1	3
合 計	6	11	4	10	3	0	1	35

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

(単位：名)

職 種	正 規	契 約	合 計	常勤換算	備 考
管理者	1		1	1	他事業所兼務
サービス管理責任者	2		2	1.2	生活支援員兼務 (0.8)
生活支援員	5	8	13	10.1	
世話人	3	7	10	9.5	
夜勤専門員		9	9	2.9	生活支援員
看護師		1	1	0.1	
合 計	11	25	36		

職 種	配置基準	常勤換算合計
生活支援員	9.88	13.3
世話人 (4 : 1)	8.75	9.55

- 強度行動障害支援者養成研修の資格取得に関する研修や法人内の研修に参加した。
- 職員会議にて身体拘束や虐待防止等の内部学習会を行ない、利用者の立場に立った支援ができるよう取り組んだ。

④ 当面の運営課題

- 重度・高齢化が進む利用者へ安定した支援ができるよう人財の確保を進めていく。
- 新規のグループホーム整備に向けて、職員全体で検討を進めていく。
- 外部研修や内部学習を通して専門性を高め、根拠に基づく支援のできるチームを作る。

4) 相談支援事業

(1) 相談支援事業所「ゼノ」から

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- ・新設された加算（要医療児者支援体制加算、精神障害者支援体制加算）を取得、申請した。
- ・一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援）の継続実施
- ・経営安定化

994 件の請求を行なった。平成 29 年度と比較し、請求件数は下回ったが、加算により増収した。

単位：請求件数

		H. 26 年度	H. 27 年度	H. 28 年度	H. 29 年度	H. 30 年度
障害児サービス等利用計画		51	59	53	54	70
障害児モニタリング報告書		53	74	68	53	67
サービス等利用計画		165	222	288	275	288
モニタリング報告書		205	458	533	623	533
一般相談支援	地域移行支援	0	0	19	5	0
	地域定着支援	0	0	0	1	10
合計		474	813	961	1,011	994
基本相談		21	39	13	30	34

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

平成 30 年度は、新たに 34 名の利用者と契約した。年々、新規の利用者数は増えている。中でも児童の相談は多く 34 名のうち、児童は 21 名であり、ニーズの高さが窺える。単にサービスの利用だけでなく、不登校や保護者に障害があるなど、複雑な課題を抱えているケースも少なくない。成人においては、引き続き介護保険への移行期でケアマネージャーとの連携が必要なケース、長期に渡り家族が抱え、社会との接点が少なく孤立していたケースも複数見られた。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

(単位：名)

	正規
管 理 者	1
相談支援専門員	4 (1 人はクローバー出向)
合 計	5

相談支援専門員 3 名体制が定着した。1 ケースを 2 名担当にすることでフォローし合える環境が整った。

平成 30 年度は全体で 27 回の研修や学習会に参加し、相談支援の質の向上を図った。権利擁護については、福山市総合支援協議会就労支援部会のシンポジウムや、広島県相談支援従事者初任者研修に出向き、当事者発表を聞いた。その他、社会福祉士相談支援実習生などの受け入れを行なった。

④ 当面の運営課題

- 相談支援専門員 4 名体制とし特定事業所加算Ⅱ（400 単位/1 件あたり）を取得、申請を行いたい。
- 相談支援専門員の人材育成を行ない、相談支援専門員の質の維持と向上を図る。
- 一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援）の継続実施。

(2) 相談支援事業所ほっぷ

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 関係機関との連携強化

日中事業所やグループホーム、居宅介護事業所や医療機関と連携を図りながら、利用者、家族の支援をチームとして取り組むことができた。

● 報酬改定に対する対応

収入増につなげる為、加算の算定条件となる研修に参加した。また、次年度に向けてモニタリングの内容を充実させるよう取り組んだ。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

(単位：件)

支援内容	2016 年度	2017 年度	2018 年度
サービス等利用支援	84	108	92
継続サービス利用支援（モニタリング）	96	148	146
合 計	180	256	238
障害支援区分認定調査	22	29	33

- 専従の相談支援専門員を配置して3年が経過し、他法人の事業所を利用されている方や地域の方からの依頼も増えてきている。新規での相談では、ご本人の状況把握やご家族との関係作り等、相談支援専門員としての技量を問われるケースも多々あり、職員個々の人材育成にもつながっている。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

(単位：名)

職 種	正規	契約	合計	備 考
管理者	1		1	兼務
相談支援専門員	1		1	専従
合 計	2		2	

- 2016 年度より専従の相談支援専門員を配置したことで、緊急度の高いケースや家族支援が必要なケースなどにも対応できている。
- 2018 年度は、報酬改定後の加算要件である資格取得の為の研修受講や相談支援に関する外部研修に参加した。客観的な視点を持つためにも、からっと会議に定期的に参加し、事例検討や担当ケースに対する意見交換などを行なった。

④ 当面の運営課題

● 専門性の向上及び体制強化

将来的に相談支援専門員を育てる環境を整備できるよう、相談支援事業所からっとと連携を図り、チームとし対応できる相談支援体制を作り上げていく。

● 関係機関との連携強化

「ゼノ」相談員会議や関係者会議を通して法人内施設との連携を密にし、ネットワークの強化を図る。

● 加算取得による収入増

加算の算定条件を満たす研修に参加し、確実に加算を取ることで収入増に向けて取り組んでいく。

5) 障害福祉サービス事業（多機能型）

（1）あかつき

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 利用者・保護者の高齢化への対応
5年先の生活を想定したサービス内容の検討を定期的に職員全体で行い、方向性を検討している。また、病気や怪我などで生活環境が大きく変わる利用者も増えており、関係機関と連携を図ることで、チーム支援ができています。
- 日中活動の見直し
利用者一人一人に合わせた作業量や作業部門の調整を行ない、やりがいや達成感につながっている。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（平成 29 年 3 月末時点）

実施事業	実利用 人数	男	女	平均 年齢	障害支援 区分の平均	年間の平均 利用率
生活介護	22 人	12 人	10 人	47.1 歳	5.8	107%
就労継続B型	27 人	14 人	13 人	49.5 歳	3.5	119%
事業所全体	49 人	26 人	23 人	48.3 歳	4.7	104%

③ 就労支援に関する事項

	部門名	売上目標	売上実績	前年度との差	工賃実績（月額）
部 門	清掃部門	4,815,000 円	4,622,975 円	▲ 468,597 円	28,136 円
	ぱん・菓子製造部門	7,200,000 円	6,163,058 円	▲ 890,824 円	15,615 円
	養液栽培部門	3,246,000 円	2,972,214 円	▲ 797,927 円	8,993 円
	ウエス部門	6,500,000 円	6,301,294 円	▲ 345,098 円	10,946 円

- 利用者の高齢化に伴い、清掃作業の作業現場を1ヶ所削減した等、全体的に収益減となっている。
- 夏場の気温上昇に伴い、作業時間の確保や作業メンバーの人選が課題となっている。

④ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

- 職員配置について、各事業における人員配置基準を下回ることはなかった。
- 人材育成
【外部研修】：強度行動障害支援者養成研修などの資格取得の研修を中心に参加した。
【内部研修】：障がい特性などを各部門でテーマを決め、実施した。

⑤ 当面の運営課題

- 高齢化する利用者、保護者の将来の生活に対応すべく、関係機関との連携を深める。
- 昨年度導入できなかった訪問リハビリを導入し、利用者の機能低下への対応を図る。
- 作業環境や作業人員の検討や作業量の調整など、利用者の状況を見ながら、必要な整理を行なう。

(2) ゆめの木・わかば

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 多機能型としての機能を拡充する。

生活介護事業は身体的リスク回避のためのリハビリを作業項目に確立できるよう検討した、就労移行事業は1名の就職を達成した、就労継続B型事業は高工賃を目指すため作業ごとの細かい収支計算を実施し継続した工賃維持を行うための検討を継続する。

● 委員会の運営(就労検討・権利擁護・保健環境・将来構想)。

活動単位のみでの視野から施設全体をよくするための視野へと広がり、施設全体で取り組むべき課題を検討する(当年度は作業別による作業収支の考え方を検討した)

● 施設内の人財育成を行い、支援現場に即した知識を向上させる。

契約職員も含めた全職員の内部研修は勤務調整等の困難により未実施(在り方要検討)。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（平成31年3月31日現在）

実施事業(定員)	実利用人数	男	女	平均年齢	支援区分平均	定員に対する利用率
生活介護(20名)	20名	10名	10名	37.7歳	5.8	96.4%
就労移行(6名)	1名	1名	0名	19.0歳	3.0	24.5%
就労継続B型(33名)	44名	31名	13名	46.0歳	4.0	119.2%
事業所全体(59名)	65名	42名	23名	34.2歳	4.2	

③ 就労支援に関する事項

(単位：円)

活動事業	売上目標	売上実績	活動事業	売上目標	売上実績
食品事業(クッキー)	2,300,000円	2,272,625円	受託事業(清掃)	20,690,000円	20,735,611円
仕入小売(きょうされん)	570,000円	654,440円	受託事業(受注)	1,818,000円	1,980,413円
その他事業(リサイクル)	482,000円	478,828円	自主製品(ウエス)	4,125,000円	4,234,276円
その他事業(ヤマト便)	378,000円	407,684円	自主製品(さをり)	559,000円	879,331円

● 就労継続支援B型事業：平均工賃／32,750円（前年度比：116%）

● 就労移行支援事業：一般就労実績／女性1名（平成30年11月より）

④ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

(単位：名)

実施事業	配置基準（常勤換算）	実際の配置			備考
生活介護	生活支援員	11.8	13.3	+1.5	正規8、固定給1、時間給6
	看護師	1	1	±0	頭数で1/週1勤務：時間給
就労移行	生活支援員・職業指導員	1.1	2	+0.4	正規1、時間給1
	就労支援員	1	1	±0	固定給1
就労継続B	生活支援員・職業指導員	5.3	7.6	+2.3	正規4、固定給1、時間給5
	目標工賃達成指導員	1	1	±0	正規1

● 人材育成：専門的な資格取得及び知識習得のための各種研修へ積極的に参加した。

⑤ 当面の運営課題

● 継続して効率的な働き方改革を進める事が結果、利用者支援に反映される施設づくり。

● 3つの事業それぞれの事業目的を強化し、事業ごとの専門性をより強化していく。

● 全職員が利用者ケースを検討し、支援の在り方を考える事の出来る研修体制を継続。

(3) ゆめサポート・バク

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 人権・権利意識の向上

積極的に外部研修に参加し、自分たちの支援を客観的に振り返る力を形成することに努めた。また、内部学習やケース検討会を通し、ストレングスモデルを意識する職員集団を目指した。

● 就労支援の質向上

月額平均工賃は 20,874 円に上昇した。2020 年には 25,000 円となるよう収益性を高め、利用者が十分な力を発揮できるよう、環境改善や支援力向上に積極的に取り組んだ。

● 日中活動の充実

専門職の指導によるリハビリの定期的な実施と、日常的に行なえるリハビリを取り入れ、利用者の機能低下予防、機能維持に積極的に取り組んだ。

● 働き方改革の推進

業務効率化のツール積極的活用と意識改革に取り組んだ。引き続き、当事業所の実情に即した取り組みとなるよう検討・実施のサイクルを継続して行く。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（2019 年 3 月末時点）

実施事業	定員	実利用人数	男	女	平均年齢	障害支援区分の平均	年間の平均利用率
生活介護	20 人	27 人	23 人	4 人	33.2 歳	5.2	115.2%
就労継続 B 型	14 人	11 人	6 人	5 人	31.6 歳	3.0	69.4%
事業全体	34 人	38 人	29 人	9 人	32.7 歳	4.6	96.4%

③ 就労支援に関する事項

	部署名	売上目標	売上実績	前年度との売上差額	工賃実績（月額）
部 門	フード	仕出し製造販売	12,800,000 円	13,422,053 円	+862,711 円
		ジェラート製造販売	4,900,000 円	4,844,539 円	+298,585 円
	アグリ	ウエス製造販売	13,500,000 円	13,892,742 円	+765,262 円
		日中活動	900,000 円	973,543 円	-1,927 円
		自然栽培	335,000 円	392,586 円	-187,979 円

④ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

事業	職種	配置基準	正 規	契 約	合 計	常勤換算
生活介護	生活支援員	14.2	8	9	17	15.6
	看護職員	(1.7 : 1)	—	2	2	
就労継続 B 型	目標工賃達成指導員	0.3	1	—	1	1.0
	職業指導員	1.4	1	—	1	1.7
	生活支援員	(7.5 : 1)	—	1	1	

● 外部研修 31 件 延 39 人 （権利擁護 3 件、資格取得関連 3 件）

● 内部学習 年間 9 回 （権利擁護 4 回、支援関連 5 回）

⑤ 当面の運営課題

● 就労支援部署の収益性の向上と工賃向上に向けた環境・体制の整備。

● 人権・権利擁護の視点に立った支援を基本とする、組織全体での支援力の向上。

● 働き方改革の推進（業務の効率化と従業員の意識改革）。

(4) J O B プラスはんど

- 5月1日(火)に徒歩退勤中の男性利用者が交通事故に遭い、5月14日(月)の未明に逝去。ご家族と連携し、警察の捜査や保険対応で出来る限りのことを行う。2019年4月段階で保険給付処理の大詰めになっていることを保険会社に確認。

① 主な取り組み(重点課題)に関する事項

- 福山市市議会棟の日常清掃業務に加え、ワックス掛け等の定期清掃業務も請け負った。
- 作業工程評価・ステップアップ目標の設定と個別支援計画への連動を開始し、作業での目標＝個別支援計画、それに基づく評価＝ステップアップ給、と一連の流れができた。
- 定員を20名から30名に増やし、新規利用者3名の受け入れに対応した。
- 就労継続B型利用者の平均工賃月額が開設満7年でようやく10,000円を超えた。
- 新規就労科目(フィットネス事業)の創設に向けた計画立案、建物の確保や改修工事の設計、機器類の選定、勤務シミュレーションなど、外枠を埋めていった。
- んまくま道の駅バラ園の維持管理として草取りを実施した(計4回)。
- LED電球への入れ替え工事を施した。総事業費528,228円(法人より490,000円)

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項(2019年3月末時点)

実施事業	実利用者数	男性	女性	平均年齢	障害支援区分の平均	年間の平均利用率
生活介護	17名	11	6	40.9歳	5.4	85.8%
就労継続B型	13名	8	5	43.9歳	3.9	93.4%
事業所全体	30名	19	11	42.2歳	4.8	89.6%

③ 就労支援に関する事項(カッコ内は利用回数の少ない利用者の工賃を除外した平均額)

- 過去2年の比較とした2018年度の平均月額工賃の実績は以下のとおりである。

実施事業	2016年度	2017年度	2018年度
生活介護	6,859円	8,541円	8,251円
就労継続B型	6,578円(6,900円)	7,968円(8,949円)	10,378円

④ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

	配置基準(常勤換算)		実際の配置			備考
生活	生活支援員	9.4	9.5	+0.1	正規4、固定給4、時間給3	
	看護師	1	1	±0	頭数で1のため週1回勤務の時間給	
継続B	生活支援員	1.7	2.0	+0.3	正規2	施設外就労の加配があるため、実質は+0.1
	職業指導員					
	目標工賃達成指導員	0.4	1	+0.6	正規1	

- 人材育成

行動援護従事者養成研修3名修了(計7名修了)、リーダー育成研修への参加、認知症への基本的な対応方法、ストレスコーピング、動機付けの方法などの学習を進めた。

- 働き方改革

- ・遠隔操作アプリケーションを導入し、屋外活動時(主に市議会棟清掃)でもインターネットを介して支援記録が入力でき、業務の効率化に繋がった。
- ・常勤職員の年休取得率は平均で67.3%、最多の残業時間も年15.5時間であった。

⑤ 当面の運営課題

- 新規就労科目(フィットネスジム)の10月1日開設

6) 児童発達支援事業

(1) 「ゼノ」こばと園・相談支援事業・第2こばと園

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 2018年度、「ゼノ」こばと園では111名（聴覚39名、発達72名）、第2こばと園では107名（発達）の子どもたちの療育支援、保護者支援、地域支援を行ってきた。例年行っている聴覚障害研修会や療育研修会も引き続き実施した。併せて、外来療育・訪問療育では605名の子どもたちがこばと園（因島・瀬戸田を含む）を相談や療育に訪れた。しかし、たくさんの相談のニーズに対応しきれず、残念ではあるが一時期難聴を除く発達ケースの新規相談を断った。
- 給付費収入（補助金事業収入含）はこばと園は前年度より約19万円減、第2こばと園約333万円減、相談支援事業約22万円増で、こばと園全体でみると総収入は前年度より約330万円減である。一方、人件費については時間外や休日勤務手当をきちんと支給したため（年間554万円）、前年度より約325万円増であり、本部会計からの繰入金金は1254万円（車両購入2台（10人乗送迎車、軽ワゴン車）繰入金354万円、資金応援900万円）、人件費率は92.3%であった。
- 働き方改革をすすめる。こばと園も第2こばと園も前年度より、受け入れ人数を押さえた（こばと年間675人減・第2こばと723人減）。その他2学期制の施行、行事の精査、外来相談の受付の制限、日課・スケジュール・会議の持ち方の検討、時間管理の徹底、療育内容・手作り教材などの検討、時間外勤務の申請と手当支給の徹底等をすすめた
- 「ゼノ」こばと園の新築移転の計画が端緒についた。夢と希望をもって計画を着実に進めたい。
- 人財育成（新人職員の発掘と育成、職員研修の強化、研修会の実施等）
- 防災、危機管理の強化（防災対策の強化整備、児童の安全のための危機管理意識の向上、事業所の自己評価、保護者の事業所評価の実施、等）

<2018年度こばと園全体の事業体系>

2019年3月現在（単位：人）

	部 門・対 象		年 齢	内 容
＜児童発達支援センター＞ 「ゼノ」こばと園 (定員 30 人 契約人数 111 人)	園 児	難聴(11 人工内耳3)	0～5 歳児	週2～3日・親子通園・集団療育と個別療育・併行通園
		発達(40)	4～5 歳児	
		(知的を含む)	3歳児(8)	毎日(月～金)・単独と親子(2/週)・集団療育と個別療育(1/月)
	難聴契約相談(28 人工内耳7)		0～5歳児	新生児聴覚検査リファール児や重複児等の個別相談検査
	つばめ教室(発達)(42)		5歳児	週1日・親子通園・集団療育(第2こばとに準ずる)
	保育所等訪問支援事業(51) (内園児 42 難聴契約 7 上島 1)		保育所・幼稚園などに訪問し子ども及び職員の支援をする	
＜児童発達支援事業＞ 第 2 こばと園 (定員 20 人・契約人数 120 人)	言語・発達・知的		1～5 歳児	午前 10 人 午後 10 人 毎週1～2日・親子通園・集団療育・併行通園
＜相談支援事業＞ 「ゼノ」こばと園相談支援事業	①障がい児相談支援事業(205 件) 指定特定相談支援事業(2 件)		通所支援利用援助・継続利用援助 居宅介護等利用援助・継続利用援助	
	②障がい児等療育支援事業 (605 人、延 3958 件)		外来療育(個別・集団)、訪問療育(個別・集団)、施設支援 ○ こばと園で行なう相談・教室 (ぼっぱ教室・ぱんだ教室) ○ 因島・瀬戸田で行なう相談・教室(因島・瀬戸田ぼっぱ教室・)	
	③地域療育支援、相談支援		幼通協、市町の委託事業、研修会の開催、講師派遣、生活支援等	

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

☆聴覚障害児（園児11名、難聴契約28名）

（単位：名）

年齢	人数	性別		地域						身体障害者手帳					療育手帳				重複障害					併行通園				人工内耳
		男	女	福山市	府中市	三原市	尾道市	井原市	庄原市	1級	2級	3級	4級	5級	非該当・未所持	○A	A	○B	B	自閉スペクトラム症	染色体異常※	水痘症	ミトコンドリア病	外耳道閉塞・口蓋裂・奇形	保育所・幼稚園等	児童発達支援	幼稚園	
未満児	2(2)	1	1	2								1		1														
0才児	7(7)	2	5	4		1	1	1		<2>		2	1	4						1			2	1				1
1才児	8(6)	7	1	6	2					<2>	1	1	2	2	2		1	1	1		1			1	2			2
2才児	1	1		1										1														
3才児	5(3)	1	4	5							1	1		3						1		1		3	1	1	1	
4才児	7(3)	3	4	7								3	2	2						1				6		1	4	
5才児	8(7)	5	3	4			2	1	1	<1>	3		2	3	1			3	1	1	1		2	3	3	2	3	
計	39(28)	20	18	29	2	1	3	2	1	<5>	5	5	7	5	16	1	1	1	4	1	5	1	1	4	14	6	4	11

注：人数()は内、難聴契約人数 < >は難聴以外の障害等級

※ 0歳児は18ptリンミー、1歳児はダウン症、3歳児は4P-症候群、4歳児はチャージ症候群、5歳児は16ptリンミー、XXY症候群

☆発達障害児（園児40名、つばめ教室32名）

（単位：人）

	年齢	人数	性別		地域				診断名										療育手帳	身体障害者手帳				併行通園
			男	女	福山市	尾道市	世羅町	井原市	自閉スペクトラム症	ADHD	発達遅滞	聴覚障害	てんかん	発達性協調運動障害	メビウス症候群	選択性緘黙	B	1級	2級	3級	3級	保育所	幼稚園	こども園
毎日通園	3才児	8	8		8				7		(2)	(1)			1		2	1						1
併行通園	4才児	12	8	4	12				7	3(1)	2		(2)							1		5	3	4
	5才児	20	18	2	19	1		1	16	3(4)	1		(2)	(1)							2	13	3	4
つばめ教室	5歳児	32	25	7	30	1	1		10	1(2)			(1)		2							19	4	9
小計		72	34	6	69	2	1	1	40	3(5)	3(2)	(1)	(2)	(4)	1	2	2	1	0	1	2	18	6	18

※()は再掲

つばめ教室利用児は診断はありていないが、自閉スペクトラム症、ADHDなどの疑いや、軽い発達の遅れなどが見られるケースが多い

<第2こばと園児の状況>

年齢(歳児)	人数	性別		地域別					診断名							療育	精	併行通園				
		男	女	福山市	世羅町	府中市	笠岡市	ゼノ児童	自閉症ス	ADHD	知的障害	発達性運	聴覚障害	てんか	A	B	3級	保育所	幼稚園	こども園	他事業所	入所施設
2	14	8	6	10	1	1	2		8							1		6		2		
3	22	18	4	22					9	4	1					1		11	6	3		
4	44	32	12	42				2	10	4	1	1			1			29	9	4	(3)	2
5	41	27	14	40				1	15	2	3		2	1		2	2	25	10	5		1
計	121	85	36	114	1	1	2	3	42	10	5	1	2	1	1	4	2	71	25	14	(3)	3

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

- ここ数年でベテラン職員が次々と定年を迎える状況があり、若い職員の雇用と育成が喫緊の課題である。児童指導員1人雇用、秋からは産休・育休の職員3名が順次復帰したが、体調を崩す職員も複数名出た。子どもの療育と職員の働き方と財政面のバランスどうとるか悩みが尽きない1年間であった。

④ 当面の運営課題

- 職員の雇用、人材育成、働き方改革
- 施設・設備整備（「ゼノ」こばと園の新築移転の計画、車両（マイクロバス）の更新等）

(2) 放課後児童デイサービスセンターぷくぷく

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

福山市における放課後等デイサービス事業を実施する事業所の数が2018年9月現在で81カ所となった。事業所の数が増加するとともに、ぷくぷくに登録する利用児童の数も年々減少して、開設当初100人を超える児童の登録であったが、2018年度は68人まで減少した。ある程度事業所の数が充足し、「量」の確保はできつつあるが、現在の放課後等デイサービス事業所に求められているのは、支援の「質」である。

- 事業区分 1－1
- 活動日 総開所日数 272日 通所率 91.7%
- 外部研修への参加 新版K式発達検査講習会、強度行動障害支援者養成研修、行動援護従事者研修、発達協会や人間発達講座が主催する実践研修・人権擁護・虐待防止等の利用者支援に係る研修への充実を図った。
- やまびこ学園との合同で組織する委員会活動において、火災時の避難訓練を毎月実施し、土砂災害時等における避難訓練を1回実施した。
- 人権擁護委員会において、虐待防止に係る振り返りチェックシートの実施や虐待による死亡事件のあった事業所におけるその後の取り組みについて学ぶ機会を設けた。
- サービス自己評価の公開 ガイドラインで示された自己評価表に基づき自己評価を実施し、法人のホームページで公開した。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

ニーズの高い事業であり、前年と同様登録児童の多い状況が続いている。

- 小学生 31名 中学生 18名 高校生 18名 内、手帳未判定 9名 68名
- 療育手帳判定の状況 ①3名 A15名 ②19名 B22名
- 男児 53名 女児 15名

課題遊びと自由遊びのグループに分かれて日々の活動を行なった。また、季節に応じた行事や夏期・秋期・春期の短期療育等を実施した。

- ・課題遊び：調理活動・工作・運動・感覚・農業・ダンス
- ・芋ほり・クリスマス会・節分 お泊り体験・日帰りデイキャンプ・ハイキング

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

《職種別の職員配置》

(単位:人)

職種	配置基準	人数		常勤換算後の人数	備考
		正規職員	契約職員		
管理者	1	1		1	兼務
児童発達支援管理責任者	1	1		1	
児童指導員・指導員	4	3	2	5.4	
保育士		1			

- ・子どもの遊びに関する研修会、発達検査の研修会、強度行動障害支援者養成研修等、職員の支援の質の向上に向けた研修を充実させた。

④ 当面の運営課題

ニーズの高い事業で利用をお断りするケースが多い。ニーズにどのように応えていくか？併せて、支援の質の向上に向けた取り組みを継続することが当面の課題である。また、業務の効率化をどのように進めていくかが今後の課題である。

(3)「ゼノ」こども広場まつなが

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 安定した事業所運営

当事業所は開設3年目を終えたが、運営については、通所率が約107%であり安定した運営ができた。また、2019年度から新規に利用を希望する児童が16名にのぼり、保護者や関係機関からの当事業所に対する一定の評価は得ていると言える。

昨年度（2017年度）より、発達検査を用いた相談や学校等との連携を活用した家族支援など個別の対応が増えたが、今年度は本人支援だけでなく家族支援も含めた本人支援を重点的に行なった。（開所日数275日 通所率107.3%）

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

● 登録児童数：46名

【自由遊び】

屋内（ホール、プレイルーム、屋上園庭）では、写し絵やすごろく、ブロック、室内ブランコなど児童が好きな遊びをして活動した。屋外では、近隣の公園（福山市松永町周辺、尾道市高須町周辺など）で遊んだり、本郷川（福山市今津町）や松永湾では、魚やカエルなどの生き物を捕るなどして遊んだ。また、夏休み期間中には、屋上園庭にビニールプールを設置して水遊びをしたり、尾道市営プール（尾道市東土堂町）へ行ってプール活動を行なった。

【課題遊び】

以下の4種目を5月～3月まで行なった。

課題遊び	回数	参加人数(延べ)	活動内容
調理	14	57	セタゼリー、カレー、クッキー、餃子の皮ピザ
工作	5	52	マーブリング、風車、ステンシルローラー、おぼけランタン
運動・ゲーム	4	54	的当て、水鉄砲、大縄跳び、ビンゴゲーム
感覚	1	32	つかめる水、泡遊び

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

《職種別の職員配置》

（単位：人）

職種	配置基準	人数		常勤換算後の人数	備 考
		正規職員	契約職員		
管理者	1	1		1	松永東保育所と兼務
児童発達支援管理責任者	1	1		1	
児童指導員	1	1		5.1	
指導員	1	1	1		
保育士	2	2	1		
合 計		6	2		

④ 当面の運営課題

● 支援の質の向上について

- ・2018年度から開始した保護者との『個別面談』を継続して行ない、児童の成長等保護者と意見交換しながら療育を行なう。
- ・面談を含めた相談支援を積極的に行なう。
- ・発達検査を用いた発達の評価を積極的に行ない、児童の発達の状況に応じた療育を行なう。

● 人材育成

- ・担当制（面談等でのニーズの把握、評価など）とする。
- ・情報共有を密に行なう。（児童の様子に対する気づき等）

● 広報の強化

- ・ホームページ等で遊びや活動の様子や、各種マニュアル、運営方針等の情報も発信する。

(4) 放課後児童デイサービスセンターらいず

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 事業所の周知活動

2018（平成 30）年 4 月に開設して 27 名の登録児童で事業を開始した。3 月までに 37 名の登録となった。職員間で話し合いを重ねながら一から活動を作っていく大変さを学んだ 1 年であったが、大きな事故等もなく活動する事が出来た。（開所日数 285 日 通所率 81%）区分 2 の 1。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

○学年別の状況		（単位：名）	
小1	5	中1	4
小2	5	中2	3
小3	1	中3	1
小4	3	中学校合計	8
小5	6	高1	1
小6	3	高2	2
		高3	3
小学校合計	23	高校合計	6
学齢児 合計		37	

○障害の状況		（単位：名）	
種別		人数	
発達障害		16	
知的障害		8	
知的障害・発達障害		9	
知的障害・身体障害		4	
合計		37	
○地域別・性別の状況（単位：名）			
市町村	人数	性別	人数
井原市	30	男	23
笠岡市	5		
里庄町	1	女	14
福山市	1		
合計	37	合計	37

- 自由遊びや課題遊びを選択活動として公園、運動、音楽療法、園芸、木工、工作等多様な活動の中からその日のプログラムをホワイトボードに張り出し、子どもたち自身に参加する活動を選んでもらい、好きな遊びをして活動した。

課題遊び(選択活動)		
活動の種類	回数	参加人数(延人数)
公園	148	847
散歩	65	202
プール	27	110
小田川河川敷	5	27
音楽・楽器遊び	47	189
音楽療法	43	180
創作活動	69	275
クッキング	61	171
園芸療法	35	137
社会体験活動(掃除・買い物・洗車)	13	27
図書館	16	50
映像鑑賞(活動ビデオ上映)	9	48

行事種類		
花見(桜・菜の花)	陸上記録会見学	電車外出
みんなで決めようDAY	ツネイシフェスティバル	野球観戦(社会人野球)
ひろま体験	学芸会見学	福山ドーム(バッティングセンター体験)
買い物体験	クリスマス会	神島海岸(貝殻拾い)
ヨガ体験	門松作り	駄菓子購入
ソーメン流し	餅丸め	バンブーフスティバル見学
天満屋水族館見学	草戸稲荷参拝	ホタル祭り
福山美術館見学	吉備津神社参拝	ちくわ作り体験
福山動物園見学	とんど	二胡演奏体験会
パクジェラート購入体験	恵方巻購入(節分)	ジョイフル食事会
あかつきパン購入体験	ハートフルフォーラム見学	神辺雪まつり
卒業生を送る会		

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職種	常勤	非常勤	合計	配置基準	備考
管理者	1		1	1	児童指導員兼務
児童発達支援管理責任者	1		1	1	
児童指導員	2		2	2	保育士・児童指導員が半数以上
保育士	1	1	2		
指導員		1	1		
合計	5	2	7		

- 6 月と 2 月に放課後等デイサービスと児童発達支援の事業所 2 か所の視察研修を行った。
- 内部研修会（性支援について・権利擁護について）を実施した。

④ 当面の運営課題

放課後等デイサービス事業はニーズの高い事業で、井原市外からの利用相談も多く、井原市内の利用で定員がいっぱいの為、市外の事業所と情報共有をしてらいたくしては断りをしながら、サービスの必要な情報提供を行っていく事が出来る体制作りが今後の課題である。また、支援の質を向上させるために、研修での学びや日々の支援での気づきを職員間で共有し、フィードバックしていく必要がある。

3. 保育事業分野

1) 幼保連携型認定こども園

(1) 幼保連携型認定こども園ゆめな

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- ゆめな ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく「教育及び保育」の実施環境を通して教育及び保育を行う事を基本として実施した。
 ・幼保連携型認定こども園の役割について、子育て支援活動など利用し情報提供を行った。
- 学童園 ・安全、安心を最優先に考えながら、1年生から3年生の関わりの中で生活できるようにした。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項 (単位：名)

認定こども園ゆめな			ゆめな学童園		
	4月	3月		4月	3月
1号認定児	20	24	1年	19	18
2号認定児	84	80	2年	10	9
3号認定児	59	66	3年	25	24
合 計	163	170		54	51

子育て支援事業別年間利用延べ人数 (単位：名)

延長保育	3,192	休日保育	231
一時預かり（一般）	932	園庭開放こんぱす	341

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項 (単位：名)

認定こども園ゆめな		園長	主幹	保育教諭	保育補助	栄養士	調理員	看護師	事務員	運転手	計
	正規	1	2	14		2		1	1		21
	固定給			1	1		1		1		4
	時間給			13	1		3			2	19
	計	1	2	28	2	2	4	1	2	2	44

学童園		固定給	時間給
	支援員	1	7

人財育成・「教育及び保育」の捉え方、環境設定の工夫に個人差があるので「幼児教育アドバイザー訪問事業」や「保育クレド」を活用し検討を重ねた。

④ 当面の運営課題

- ゆめな ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂の研修に参加し、ゆめなの教育課程について検討をする。
 ・子育て支援事業を地域の子育て家庭に広く周知するため、地域の保健師や民生委員・小学校等との連携を深める。
 ・今後少子化が進む中での、利用児童の受け入れについて検討する。
- 学童園 ・配慮の必要な児童に対する支援が必要となるため、内部研修を継続して実施することや関係機関との連携を深める。
 ・6年生までの受け入れ態勢、事業実施場所等についてネウボラ推進課と連携する。

2) 保育所

(1) 松永東保育所

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

1) 地域に根ざした運営

地域行事への積極的な参加や、園外保育時に元気な声で挨拶をすることで、保育所の存在をアピールし、新規入所につながり「ひよこ広場」へも多くの人に足を運んでいただいた。

様々な課題のある保護者に対して子育て支援をするにあたり、主任民生委員や保健師と連携をとり、積極的に関わりながら地域の子育てを応援できる体制が確立できた。

2) 0 歳児保育の充実

保護者の育児休暇明け予約に対応できるように、年度当初から多めに職員を採用していたことで、前年度に比べ途中入所受入件数は遙かに増え、22 名の子どもを受け入れた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

利用児童数推移

(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	7	8	8	9	12	14	16	17	21	21	22	22
1・2歳児	46	46	46	46	46	46	46	46	45	44	45	44
3歳児	24	24	24	25	25	25	25	25	23	22	23	23
4・5歳児	57	57	57	56	56	51	56	55	54	55	55	55
合計	134	135	135	136	139	136	143	143	143	142	145	144

※配置基準 0 歳児＝3：1 1.2 歳児＝6：1 3 歳児＝20：1 4 歳以上児＝30：1

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

育休予約の児童が入所するのに伴い、保育士の確保をしていかなければいけないのが大変だったが、採用活動に力を注ぐことによって充足できた。

3 月末の職員配置

所長・主任保育士・看護師・保育補助・調理員・事務員・子育て支援拠点担当 各 1 名
栄養士 2 名 保育士 28 名 合計 37 名

職員研修

保育協会・保育連盟等の研修に参加し、職員それぞれの専門性、スキルの向上を図った。

所内研修ではクラスにおける課題を出し合い、職員同士でディスカッションすることで解決の糸口を見つけ、発達に課題のある児童については「ゼノ」こども広場まつながの桑田主任を迎えて、ケース会議を行なった。

④ 当面の運営課題

少子化がさらに加速する事を見据え、研修等を重ねてスキルアップを図ることで、地域から必要とされる保育所になるよう、職員が一丸となり努力を続けていく。

4. 未来も笑おうプロジェクト

1) 主な取り組みに関する事項

- (1) 居場所づくり：季節行事や誕生日会を通じて、何でも話せる場所を目指した。
- (2) 子ども食堂：簡単な調理を学び、作ること、食べることの大切さを伝えた。
- (3) 学習支援：宿題や興味のあることから、少しずつ学習意欲の向上を図った。

2) 子どもたちの状況

(1) ルールづくり

Come 叶夢ハウスのルール（調理、学習、遊び）づくりについて、子どもたちが主体となって話し合いを重ねた。そのなかで、相手への思いやりや譲り合いの心を持てるようになってきている。

(2) 自分が認められる場所

誕生日会等を通じて、自分の存在を認めてもらえ、みんなから祝ってもらえることで自分自身を感じ、自分自身を認め、相手を思いやることができるようになった。

(3) 安心できる場所

8名の子どもたちの参加がほぼ定着した。Come 叶夢ハウスが「居心地のいい場所」であり、ここにいる大人は信用しても良い存在と感じていると思われる。

3) 活動に関する事項

(1) Come 叶夢ハウス活動時間

	9:00	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
18:00										
職員	出勤・朝礼・準備・迎え			活動開始（調理、学習、行事等支援）				送迎・終礼		退勤
Vo				活動開始（調理、学習、行事等支援）				終礼・退勤		
子ども				調理実習・食事		学習・遊び		終会・帰宅		

①活動日 毎月第2・第4日曜日

②活動時間 11:00～16:00（子どもの活動時間）

(2) Come 叶夢ハウス活動実績（※年間24回の内、22回開催） 単位:名

実施回数	子ども		職員		Vo		見学者	活動内容 (調理実習、学習、行事等)
	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均	体験者	
22	115	5.2	111	5.0	164	7.4	11	誕生日会、Xmas、卒業祝い等

4) 当面の運営課題

(1) 新規の子どもたちの開拓

松永地域の対象となる子どもたちは10名以上いる。また外国人籍の子どもも多い。
この子どもたちの受け入れを、民生委員、家庭相談員と連携し進めて行く。

(2) ボランティアの確保

居場所づくりを進めて行くためには、貧困の連鎖を断ち切り、生きることの大切さや喜びを感じてもらえる支援「食べる、遊ぶ、学ぶ」が必要と考えられる。
そのための、学生やシルバーボランティアの確保が必要である。

5. その他の事業

1) 診療所

(1)「ゼノ」診療所

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

2018年度も経営の安定を図るため、収入の確保と支出の削減に重きをおいた努力を継続して取り組んだ。

内科・精神科においては、利用者の健康状態に応じた検査を適正に実施することで診療報酬算定の安定を図った。歯科においても、これまで通りの治療や口腔ケアを実施していくことで、安定した事業運営が実現した。

いずれにしても、利用者の健康の維持・増進に重点をおき、現場スタッフと連携を図りながらその目的の達成のために全力を尽くした一年となった。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

やまびこ学園、なごみの家、沼隈地区ホーム群の利用者の通院や入院の支援や診療、健診等を実施した。

● 入院の状況

やまびこ学園：延39日（現在入院中の利用者は除く）

なごみの家：延192日

● 通院の状況

児童部：延161名 成人部：延597名

● 診療の状況

内科：延1,207名 精神科：2,324名 歯科：1,961名

● 検診の実施

11月6日、13日、16日の3日間で利用者・職員の検診を実施した。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

医 師 3名（内科・精神科・歯科）

看護師 3名

歯科衛生士 2名

医療事務員 2名

④ 当面の運営課題

● 診療所の業務は、診療業務に関連することや法人全体の職員健診の手配、労働基準監督署への検診結果報告、各種加算算定のための利用者の健康状態のまとめなど、多岐にわたっており、煩雑化している。それらの効率的に業務が遂行できるよう診療所内部において業務効率化に向けた協議を重ねていく必要がある（継続課題）。

● 障害者支援施設に隣接することから、同一敷地内に所在すると判断される可能性を指摘された。そこで、やまびこ学園との境界を明確にし、正規の診療報酬が受給できるよう環境整備を進める必要がある。